



令和5年度学校だより 甲府市立南西中学校

銀杏

(いちょう) 第6号 令和5年9月14日(木)発行

育指標「日に新たに」

●学校教育目標「たくましい心と体をもち豊かに学び合う生徒の育成」

文責：校長 井上 有史

全国学力・学習状況調査結果

令和5年度の全国学力・学習状況調査は、全国の中学3年生と小学校6年生を対象に、4月18日(火)に実施されました。中学校では、例年実施されている「国語」「数学」に加え、「英語」が調査対象に加わり、3教科での実施となりました。また、生徒の生活習慣や学習環境等に関する「質問紙調査」についても例年通り(項目の変更等あり)の実施となりました。調査の目的は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態等を明らかにすることにより、今後の指導改善に役立てることです。本校の分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせするとともに、HPにも掲載いたします。



本校の状況

本校の平均正答率は、「国語」「数学」「英語」ともにほぼ全国・県と同等の結果となりました。詳しい分析は以下に示させていただきます。

| | 国語 | 数学 | 英語 |
|----------|------|------|------|
| 山梨県平均正答率 | 70 | 50 | 43 |
| 全国平均正答率 | 69.8 | 51.0 | 45.6 |

各教科の状況

○=傾向・成果 ●=課題

国語

<傾向と課題>

- 平均正答率は、全国・県を若干下回っているものの、差が5%以内にあることから「ほぼ全国と同等の結果」といえる。多くの設問で無解答率が全国・県より低く、粘り強く取り組む姿勢が見受けられる。
- 「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えること」や「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと」などは、全国・県の正答率を上回っている。
- 課題としては、「意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」問題や「文脈に即して漢字を正しく書く」問題の正答率が低いことが挙げられる。

<改善のための方策>

- 字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得させるとともに、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣を養うことができるよう指導していく。
- 自分の考えを伝える文章を書く際、確かな事実や事柄に基づいた考えと、考えを支える根拠として示す事例等との関係を明確にして記述できるように指導していく。

数学

<傾向と課題>

- 平均正答率は、全国と同じであり、県をわずかに上回っている。差が5%以内にあることから、「ほぼ全国と同等の結果」といえる。多くの設問で無解答率が全国・県より低く、粘り強く取り組む姿勢が見受けられる。
- 「自然数の意味を理解している」や「四分位範囲の意味を理解している」は、全国・県の正答率を大きく上回っている。
- 「図形」の領域において正答率が40%を下回っている。
- 「データの活用」の領域では、「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」に関する問題の正答率が低いことが課題である。

<改善のための方策>

- 身の回りにある事象から図形の問題を設定し、観察や操作などの活動を通して、実感を伴いながら理解できるような活動を取り入れていく。
- 一旦解決された問題やその解決過程を振り返り、問題の条件を見直したり、共通する条件や図形の性質を見いだしたりする活動を取り入れていく。
- 代表値や四分位範囲、累積度数を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、その判断の理由を説明する活動を取り入れていく。

英語

<傾向と課題>

○平均正答率は、全国・県を下回っているものの、差が5%以内にあることから、「ほぼ全国と同等の結果」であるといえる。多くの設問で無解答率が全国より低く、粘り強く取り組む姿勢が見受けられる。

○「聞くこと」「読むこと」の領域の中でも、「社会的な話題について、短い説明の要点を捉えること」や「文と文との関係を正確に読み取ること」は、全国・県の正答率を上回っている。

●「書くこと」については、日常的な話題に関して、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。

●「話すこと」については正答率が低い。とくに、社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに課題がある。また、「未来表現 (be going to) の活用」についても正答率が低い。

<改善のための方策>

○テーマについて事実や自分の考えをメモやマッピングなどを使い整理し、文章構成を判断しながら、文のつながりを意識したまとまりのある文章を書くことができるよう指導していく。また、日頃から思ったことや考えを順序立て、文字で表す活動を継続的に取り入れる。

○既習事項を取り入れた 1 minute Talk を活用し、日々の帯活動に取り組む。その中で話す情報や内容の精選力を養う。また、聞いたことを基に自分の考えとその理由を話すことができるようにするために、聞いて得た知識や情報のメモを基にポイントをつかみ、自分が一番印象に残った内容や、興味をもった情報を伝えたりする活動を取り入れていく。

質問紙調査の結果について

今回の質問紙調査は、例年と同様に学校や家庭における学習や生活の様子について、72 の質問項目により実施されました。結果を詳細に見ていくと、72 の項目の内、31 項目が全国や県よりも良好な状況、36 項目がほぼ同等な状況、5 項目については改善が必要な状況でありました。また、他との比較ではなく本校生徒の特徴的な様子も明らかとなりましたので以下にご報告いたします。

質問紙調査の主な特徴

○先生は良いところを認めてくれるか (96.9%)、先生は分かるまで教えてくれるか (98.4%)、人が困っているときは進んで助けているか (96.9%)、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか (98.4%)、学校に行くのは楽しいか (96.9%)、友達関係に満足しているか (92.3%) 普段の生活の中で幸せを感じるか (96.9%) 等、いずれも全国・県の平均を大きく上回っており、充実した学校生活や友人関係の様子がうかがえる。

○自分には良いところがあると思うか (89.2%)、人の役に立つ人間になりたいと思うか (96.9%) 等、将来の向けて前向きな気持ちで行動している生徒が多い。

○1、2 年時の学級活動や総合学習、道徳の授業、ICT の活用状況については、いずれも全国・県の平均を上回り有効な学習活動が展開されていたことがうかがえる。

○平日や休日の家庭学習 (ICT の活用を含む) においては、いずれも全国・県と同等の結果であり、家庭学習の定着の様子がうかがえる。

●各教科 (国・数・英) の学習の大切さや有用性についての意識は、全ての教科において 80% を超えているものの、教科によっては「好きである」の割合や理解度が低い結果となっている。

●地域や社会をよくするために何かしたいと思う生徒 (75.4%) は、全国・県を上回っているものの、地域の行事に参加している生徒の割合 (47.7%) は県の平均を下回っている。

●学校図書館や地域の図書館を頻繁に活用する生徒の割合が全国・県に比べて低く、また、新聞をほとんど読まない (76.9%)、読書をほとんどしない (18.5%) 生徒の割合は、全国・県の平均より良好であるものの、活字離れが進んでいることが課題として見られる。

質問紙調査からの改善点

○今回の調査結果からは、安定した学校生活の様子や良好な人間関係の様子等が見られ、学校教育目標である「たくましい心と体を持ち、豊かに学び合う生徒の育成」の具現化に向け、一定の成果があがっているものと判断している。一方で、様々な事情により学校を欠席がちな生徒や今回の調査についても未受験の生徒が複数名いることから、数値には表れない課題が存在することも想定しなければならない。今後は、「通級指導教室」「校内教育支援センター」の充実等を図りながら、全生徒の居場所づくりに向け全校体制で課題解決に向けた取り組みを推進したい。

○学習への意識については、好き嫌いや有効性の認識等、教科によって差異が見られることが課題である。全教科、全教員が課題を共有しながら、わかる授業や興味関心の喚起等、より一層の授業改善を進める必要がある。校内研究の充実等を中心に、課題解決を図りたい。また、活字離れへの改善策として、委員会活動等を中心とした取組の推進により、読書習慣の定着を図りたい。

○地域の行事等への参加体制については、学校運営協議会や自治会との連携を図る中で改善を図りたい。